



関東ブロック中学校
社会科教育研究会
会 長 高岡麻美
編 集 小出 宏
事務局 台東区立
御徒町台東中学校
〒110-0016
台東区台東4丁目
13番16号
TEL 03-3831-3787
題字 初代会長
宮崎謹一郎



次へつなげるもの

会 長 高 岡 麻 美

(東京都府中市立府中第九中学校長)

平成二十八年六月十一日第一回理事会で会長に承認いただきました東京の高岡麻美です。前小林誠会長の後任として、微力ではございますが、関東ブロック中学校社会科教育研究会の発展のため、職務に励む所存です。どうぞ、皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

【次期学習指導要領の方向性】

平成二十八年十二月、中央教育審議会より答申が出されました。次はいよいよ告示の公示となります。次期学習指導要領が示す方向性は、「何ができるようにするか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか、何が身に付いたか」の三つの柱であることが、すでに示されています。この三つの柱から、今までの大きな違いに気付かれた先生方も多いと思います。それは、これらの言葉の主語が誰であるかという

ことです。教員が「何を教えるのか」ではなく、「児童・生徒」が「何を学ぶか」、それのように「何ができるようにするか」、さらに「どのように学ぶか」が求められています。

私たちは、これからの予測不能な時代に、知識や経験を基に、物事を多面的・多角的に見、考える力、そして社会や世界と関わり、よりよく人生を送ることができ、ゆたかな「知」を子供たちにもたらす使命をもっていると言えます。そのために、関東ブロックの各研究会と今後も連携を図りながら、共に学び合う必要があると考えています。

【平成二十八年度神奈川大会について】

十一月四日、第三十四回関東ブロック中学校社会科教育研究大会神奈川大会を、研究主題『社会の中で生きる力を身につけることができる生徒の育成―学び合いと社会的な見方・考え方を軸に―』のもと、三百名近い方々

にご参加いただき、盛会に終了することができました。これも、藤澤朋二郎会長様を中心に、池谷弘子実行委員長様はじめ神奈川中学校社会科教育研究会の皆様のご尽力のおかげと深く感謝申し上げます。

【これからへ】

私は、この大会を通して、感じたことがあります。それは私たちが「研究団体」であると同時に、「育成団体」でもあるということだと思います。研究大会を通じて、それぞれの地区で培ってきた研究の成果を若手教員に伝え、若手が実践を積極的に行っていくことで、さらに新たな研究を積み上げていく。そのことを通して、研究と人材の両方が育成されることが可能になっていくのではないのでしょうか。

来年度の埼玉大会は、川越市で開催予定です。すでに大会に向け、準備が進められています。その成果発表を、皆様、どうぞ楽しみになさってください。また埼玉県社会科教育研究会の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さらに、各研究団体の研究の様子を、ホームページに掲載していただくことで、関東ブロック、そして全国に発信していく場となっていくかと思えます。各研究会の関ブロホームページ掲載を重ねてお願い申し上げます。最後になりましたが、今年度の諸活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしく申し上げます。

第三十四回 関プロ中社研 神奈川大会を終えて



神奈川大会実行委員長
相模原市立中学校教育研究会社会科部

部長 池谷弘子

(相模原市立東林中学校長)

十一月四日(金)

相模原市において第三十四回関東ブロック中学校社会科教育研究大会神奈川大会を開催いたしました。各都道府県からたくさんの方々にご参加いただきましたことに、心よりお礼申し上げます。開催にあたり関プロ中社研の高岡会長様をはじめ、役員・事務局の皆様には多くのご指導、ご支援をいただきました。深く感謝申し上げます。今回の大会は第三十九回神奈川県中学校社会科教育研究大会を兼ねての開催でした。大会時にご指導ご助言をいただいた県及び横浜・川崎・相模原市の指導主事の先生方には、二年前にわたり授業づくりのところから関わっていただき、一緒に研究を進めてまいりました。また当日各会場の運営にあたっては県内各市町村の多くの先生方に、受付・司会・記録といった役割分担を引き受けていただき、まさに神奈川県内の総力を結集しての開催となることができました。

大会では「社会の中で生きる力を身に付けることができる生徒の育成」学び合いと社会的な見方・考え方を軸に

を主題として設定しました。社会科という教科で、地理・歴史・公民的分野それぞれの中で、生徒が身に付けなければならない社会的認識とは何か、こうした視点から授業の在り方を根本的に考え直しました。具体的には、単元内容を構造化し、様々な社会的事象の関連性を思考・判断・表現させるような授業実践の研究を二年前から続けて来しました。こうした日々の地道な実践の積み重ねの集大成が今回の発表となりました。さて、当日全体会の記念講演では、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 濱野清先生から「今後期待される社会科授業の方向性」という演題でご講演いただきました。現在濱野先生が直接関わっていらつしやる新学習指導要領の改訂の内容と、今回の研究の目指すところに重なる部分が多くあることがわかり、たいへん心強い思いを持つことができました。

午後からは相模原市立大野南中学校にて地理的分野、相模原市立新町中学校にて歴史分野、相模原市立谷口中学校に

て公民分野の公開授業及び研究協議を実施しました。公開授業では、三分野とも経験年数十年に満たない若手の先生が授業者となり、それぞれの研究部の心強い後ろ盾のもと、何度もプレ授業を行った成果を活かし、堂々たる授業を実施することができました。生徒達も体育館を会場に、溢れんばかりの参加者に最初緊張ぎみではありましたが、普段からの教科担任との信頼関係のもと、意欲的に学習に取り組み、活発な意見交換が展開され、参加者にとっても有意義な時間を共にすることができました。その後の分科会1では公開授業について、分科会2では県内各地の取り組みについて研究協議が行われました。限られた時間ではありましたが、先生方にとって、次の授業に活かせるヒントがたくさんあったのではないかと思います。

この大会の準備や運営を通して、相模原市内はもとより、神奈川県内を超えて広く関東各都県の学校の先生方と、新たな連携・絆を深めることができました。今回の大会に寄せられたご意見・ご指導を参考にし、今後の神奈川県中社研のさらなる充実に向けてまいりたいと思っております。

終わりになりますが、これまでご指導ご支援をいただきました関係の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、次期開催となる埼玉大会のご成功を祈念してお礼の挨拶とさせていただきます。

地理的分野に参加して

千葉市立朝日ヶ丘中学校

後藤健次

相模原市立大野南中学校で、神保彩先生による世界の諸地域「統合していくヨーロッパ」の授業を参観させていただいた。

今回の相模原大会の研究の目玉の一つは、単元を通して身につけさせたい社会的な見方・考え方を授業者がしっかりとらえ、そこに至るまでの思考の流れを生徒レベルの言葉で学習指導案に明示するという点です。特に、授業後の研究協議会では、この単元での生徒に身につけさせたい社会的な見方・考え方の妥当性についてが議論のポイントとなりました。

その前に、簡単に授業の流れについて述べておきたいと思います。本時は、世界の諸地域「ヨーロッパ」を学習する六時間扱いの単元の最後の時間に設定されていて、まとめの学習となっています。ここに至るまでの間、ヨーロッパを概観する学習、ヨーロッパがまとまっていくことによる文化や産業・環境問題がどのように変化していくのか、またなぜまとまろうとするのかという課題を追求してきており、本時はヨーロッパがまとまるとどのような変化が起きて、どのような地域を目指すのかという課題を、班ごとに追求する学習となりました。どの班の生徒たちも時間いっぱい熱心に話し合っ

ている姿が印象的でした。話し合いの中で、今までの学習をもとにして、ヨーロッパがまとまっていくことでの変化を、分野ごとに付箋紙にどんどん書いて、それをプラス面とマイナス面に分類するという活動でした。その学習を通して、ヨーロッパがまとまることによって、どのような地域を目指していったら良いかを、個人で考えさせることを、最後のまとめとしてしました。

研究協議会では、イギリスのEU離脱など、最近の流れをどう授業でとらえていくか、また、統合ありきで、まとまることでどのような地域を目指していったら良いかという課題はまとめとしてどうなのか、という意見が出ました。世界地理の学習として、ヨーロッパの地域的特色を授業者がきちんととらえて単元を構成し、授業を作ることが大切であるというまとめとなりました。参観させていだいた我々にとつて、たいへん勉強になる授業・協議会でした。

最後に、関ブロ神奈川大会の運営で尽力された先生方、授業を含めた研究に尽力された先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



歴史的分野に参加して

横浜市立中川中学校

相磯達夫

歴史的分野は相模原市立新町中学校において、同校の石井光絵教諭により「中世の日本」の単元で研究授業が行われた。今回の授業は、12時間構成の1時間目で、「平安時代の私有地の発生と地方政治の乱れから、武士が誕生したことを理解させる。」という点と、「幕府が武士の土地の支配のもとに成立することから、封建制に移行する必然性に気づかせる。」という2点をねらいに展開された。

2つのねらいを考える学習テーマは、「世の中が変わるといえることはどういうことなのか？」で、古代の既習知識を確認・振り返りつつ、中世を特徴付ける武士や封建制の概要を捉えさせようとするものであった。

今回の授業には、思考を深めさせる工夫が随所に表れていた。まず、視覚的な工夫である。例えば、古代から中世にかけての権力関係を数値や構造図を用いたり、パワーポイントを効果的に活用したりして、生徒の意欲を高めていた。また、学習プリントにも自分の意見や考えを書く部分と、二者択一にして思考を促す部分とを組み合わせる工夫があった。さらに生徒の思考場面でも、「あなたが武士のリーダーなら、どのように武士をまと

めていくか？」と「古代から中世の移り変わりを学んで、あなたが得た歴史の考え方は？」を主たる発問とし、班で話し合わせていた。

授業は非常にテンポ良く展開し、既習知識の確認や発問に対しても、指名された生徒は的確に答えていた。普段の授業も意見を言い合う環境が整い、充実している様子がかげえた。授業の最後は、武士の生み出した「御恩と奉公」の関係を『契約』と捉え、まとめていた。そして、これからの授業で『契約』関係がどうなっていくのか考えようと展望を示して終了した。

授業後の研究討議では、単元構成についての質問や中世の捉え方を単純化しすぎてはいないかといった意見が出され、非常に内容の深い有意義なものであった。

色々な討議がなされたが、前後の時代と比較しつつ中世を分裂の時代と捉え、その中で中世を特徴付ける事象を考えさせるといふ相模原市の試みは、とても意欲的で参考になるものであった。今後さらに多くの実践を蓄積し、研究が深まっていく相模原市の動向に注目したいと感じた。

関ブロ相模原大会の研究や授業作り、また運営に携われた先生方のご尽力に深く感謝いたします。研究討議や研究発表を含め、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。

公民的分野に参加して

相模原市立清新中学校

駒村 彰彦

十一月四日、相模原市立谷口中学校を会場として「地方自治」を題材に授業が実践されました。大会主題「社会の中で生きる力を身につけることができる生徒の育成」にならない、生徒たちは理想のまちの実現に向けて年代や性別、職種など様々な立場から考察すること（範囲を軸にした点）や施設配置が将来に必要かどうか（期間を軸にした点）を中心に議論をすすめました。まちづくり構想の四つの視点（「より多くの人のためか」「実現可能か」「より効果的なものはないか」「最も必要なことは何か」）を意識しており、多くの生徒が高齢者や女性、子どもといった社会的弱者の立場を考慮した発想で、まさに「効率と公正」を可視化した活動を展開していました。

このように、地方自治体の役割には必ず一貫した一つの主旨が存在していなければならず、住民が安心して暮らせる住環境を整え、半永久的に続く幸せと豊かさで満ち足りた日常を形成する事を目的としていなければなりません。何をやるにしても地方自治体にとって住民なくして成り立ちません。まさに人間が形成する社会は契約により主に成立

しており、多様な立場からベターな契約を求めていく大切さをこの授業を受けて再確認することができました。また、世の中にはどのような解決策があるのか、具体的事例から一般化した見方、考え方を導き出すための解決の糸口が徐々に生徒の手により明確になっていく様子もみられました。地方自治という自分たちの「地域」に関わる政治は国政の範囲より狭い分、互いに話し合い、納得できる可能性が高く、そのため今回の題材が生徒の自治活動への見方、考え方の転換や自ら政治に参加する意志のきっかけになると感じました。授業者の立川教諭によると指導後の生徒の意識に変化がみられ、課題解決へ向けた意欲、態度の高まりや地域社会の発展や環境について前向きに考える生徒が増えたこと、また何よりも生徒自身が「人とかかわりながら学習に取り組むことを楽しく感じるようになった」「助け合いや奉仕の心を大切にしようと思えるようになった」などの変化を感じたようでした。

最後に、社会科学習を通じて生徒のみに限らず私たち教職員も地方自治の本質や在り方について見直す機会を提供していただいた関東ブロック中学校社会科教育研究大会相模原大会実行委員会をはじめ、多くの関係者、先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第三十五回 関ブロ中社研埼玉大会に向けて



埼玉大会実行委員長
埼玉県教育研究会社会科研究部

部長 山口 勝
(埼玉県深谷市立藤沢中学校長)

埼玉県社会科教育研究会は、来年平成二九年十一月十七日の第三五回関ブロ埼玉大会（川越大会）開催に向け準備を進めております。三年前から研究部を、本年より実行委員会を立ち上げ、学習指導要領の改訂を視野に入れながら、これからの中学校社会科教育の在り方を研究しています。会場となる川越市は埼玉県西部の政治・経済の中心であり、また歴史的遺産が数多く存在する観光都市の特色を併せ持つ中核都市です。研究部員たちは、川越の歴史的・地理的特色等を教材として積極的に取り入れながら、熱心に研究を進めています。

我々は来年度の川越大会の研究テーマを「追究する力を育てる社会科学習」〜主体的・協働的に学ぶ学習の充実〜と掲げました。その設定理由として、これからの社会科教育においては、学習の過程や学習活動を工夫し、社会的な見方・考え方を発揮させて、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶ学習を一層充実させていくことが求めら

れていると考えたからです。またそれは、中教審教育課程部会での「これまでの審議のまとめ」に述べられている次期学習指導要領改訂の基本的な方向性にも共通するものであると考えております。

埼玉県社会科教育研究会は、過去4度関ブロ埼玉大会を開催させていただきました。その実績や成果、私も研究会の日常の取組を通して、生徒が主体的に学ぶ力を育てる社会科学習の在り方や指導法の工夫改善に取り組んで参りました。これらの研究成果の蓄積もこの川越大会の研究に大いに生かしていきたいと思えます。

また「教育は人にあり」と申します。社会科好きな生徒を育てるためには、社会科指導に対して研究熱心で指導力を高めようと努力する、教育愛に溢れた先生方の存在が不可欠であります。この埼玉大会の実施を通して、若い情熱ある先生方の、教師としての力量をさらに高める絶好の機会としていきたいと思えます。授業者や研究部員のみならず皆で切

磋琢磨しつつ、学ぶ楽しさを味わえる授業を提供し、確かな学力を育成して参りたいと思えます。

このような機会を与えていただいた関東ブロック中学校社会科教育研究会高岡麻美会長並びに関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。残り一年更なる研究や準備に精進し、川越の良さを生かし、子どもたちの良さをさらに伸ばせる授業を創造していきましょうと思えます。

来年十一月十七日、川越の地でお目にかかれることを楽しみにしております。

新刊 わかる！取り組む！

災害と防災 全5巻

特色1 災害のしくみから事例、対策まで体系的にわかる！
①基礎→②事例→③対策 のわかりやすい構成。

特色2 熊本地震など、最新の事例が満載！

特色3 災害を自分ごととしてとらえ、防災に取り組む！

全5巻内容 各分野の専門家が大量！第一線で活躍する研究者が解説。

1 地震 (鈴木康弘ほか)	4 豪雨・台風 (海津正倫ほか)
2 津波 (今村文彦ほか)	5 土砂災害・竜巻・豪雪 (久保純子ほか)
3 火山 (山岡耕春ほか)	

◆本体価格 セット 15,000円 / 単品各 3,000円 (税別) ◆各巻平均 56ページ

帝国書院 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-29
TEL.03-3261-9038 FAX.03-3234-7002

茨城県の研究概要

茨城県教育研究会社会科教育研究部事務局
茨城大学教育学部附属中学校
田中正彦

1 研究主題と研究の取組

『「かかわり」を深め、

未来を創る力をはぐくむ社会科学学習』

昨年度本県で開催した関ブロ茨城大会の反省をふまえて、各校で授業研修を進めてきた。社会的現象同士との「かかわり」、学習者同士との「かかわり」、今までの自分とこれからの自分との「かかわり」を三つの視点として、生徒が主体的で深い学びが達成できるような授業の展開を目指してきた。

これからは、これまでの研究をさらに深化させるとともに、次期学習指導要領の実施をにらみながら、研究主題の見直しや、次年度以降の研究に取り組んでいきたい。

2 研究事業

(1) 学力診断のためのテスト

①趣旨

○基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する学習活動を充実させ、学習意欲や思考力・判断力・表現力等を育成し確かな学力の向上に努める。

○児童生徒の学力の実態を指導年度内に把握し、指導方法等の改善や補充指導を通して、学力の定着を図る。

②実施

中学校三年生は十一月実施、中学校一・二年生は一月実施。問題作成、結果の考察までを年度内に行った。

(2) 小学校社会科副読本

「わたしたちの茨城県」の改訂

(3) 茨城県教育研究会社会科教育研究部郡

市部長研修会

第一回 二十七年事業・決算報告

第二回 二十八年役員選出事業計画・

予算審議

第二回 二十八年事業・決算報告

二十九年度予算案審議

3 その他

第三十四回関中社神奈川県相模原大会への参加

埼玉県の研究概要

埼玉県中学校社会科部事務局次長
埼玉大学教育学部附属中学校
二瓶剛

1 研究主題

「追求する力を育てる社会科学学習」主体的・協働的に学ぶ学習の充実」

本研究会では、平成二十九年関ブロ埼玉大会(川越市開催)を見据え、育成したい生徒の姿を設定し、その目標に迫るため生徒自身が主体的に学習に取り組む、課題解決に向けて身に付けた資質・能力を生かす学びの工夫を研究している。

2 研究事業

(1) 地域学習研修会

市町村や埼玉県の社会的現象を授業で扱う際に必要な基礎的内容を研修し、教員の資質向上を図る目的で実施している。今年度は、八月五日(金)にさいたま地方検察庁とさいたま地方裁判所を会場に、裁判員制度や検察の業務についての説明を受けたり、実際の

裁判の傍聴を行ったりした。裁判員制度が始まり早七年が経過したが、法教育につながる様々な物事を研修することができた。

(2) ブロック別授業研究会

研究主題のもと、関ブロ前年度の今年は、東・西・南・北・さいたま市全ての地区で研究授業・研究協議を実施した。

○七月六日(水)川越市立川越第一中学校

歴史的分野「中世の日本」

○十月二十日(木)皆野町立皆野中学校

歴史的分野「近世の日本」

○十一月二日(水)戸田市立笹目中学校

公民的分野「私たちと政治」

○十一月二十五日(金)吉川市立南中学校

公民的分野「私たちと経済」

○十二月十四日(水)さいたま市立与野南中学校

公民的分野「私たちと政治」

(3) 埼玉県社会科教育研究会研究発表大会

八月十日(水)にさいたま市教育研究所にて今年度新たな試みとして、地理・歴史・公民の各分野二本ずつ、小学校・中学校それぞれの実践の発表を行った。

(4) 社会科基礎学力調査

生徒の思考力・判断力・表現力の実施を調査し、指導の改善・推進の資料とすることを目的に、県内五地区から選出の委員で問題を作成し、十月～十一月に調査を、十二月に分析を実施した。来年度は、過去三年分の問題を編集し、冊子として刊行する予定である。

(5) 現地研修会

平成二十九年二月十五日(水)に川越市博物館を会場に、学芸員による展示案内及び講演会を実施した。

栃木県の研究概要

栃木県中学校教育研究会社会部会長
宇都宮市立上河内中学校長
山本 伸夫

研究主題

社会を見つめ、社会と関わる力を育む

社会科学学習の創造

1 研究の概要

本年度より、平成三十年の関プロ栃木大会へ向けて、前研究で得られた成果と課題を踏まえて、研究主題を右記の通り設定し、県全体で研究を進めている。

また、栃中社研では伝統的に夏期研究大会を開催しており、地・歴・公三分野の研究発表をバランスよく行うため、各地区ごとに研究分野を分担し研究を行っている。

(1) 成果

昨年度までの成果を生かして各地区ごとに、社会を見つめ、社会と関わる力を育む授業の工夫を行い、研究を進めてきた。単元を再構成し、適切な課題を設けて行う学習の授業や、意図的・系統的に思考力・判断力・表現力の育成を行うための教材の工夫、表現の充実を図るための場面設定や表現する目的の明確化を図った授業など、研究主題に迫るための授業構成が有効であったことを実証する実践研究が発表された。

(2) 課題

次期学習指導要領改訂へ向けての動きを取り入れながらの研究であったため、しっかりとした方向性を示すことができなかった。来年度は、関プロプレ大会を行う予定であるので前研究の成果を踏まえて発展的に研究を進めていきたい。

2 活動の概要

(1) 栃木県中学校教育研究会社会部会 夏期研究大会

- ①期日 平成二十八年八月四日(木)
- ②会場 とちぎ青少年センター
- ③内容 県研究部提案

地理的分野実践研究報告
(塩谷・南那須、上都賀)
歴史的分野実践研究報告
(下都賀、那須)
公民的分野実践研究報告
(芳賀、佐野・足利)

(2) 各部会等

- ①県中教研社会部会総会(一回)
- ②県幹事研修会(四回)
- ③県研究部研修会(三回)
- ④研究紀要発行(一回 八月四日)
- ⑤県版ノート発行(二十九年三月)

群馬県の研究概要

群馬県小学校中学校教育研究会中学校社会科部会 事務局長
群馬大学教育学部附属中学校
弥城 淳

1 研究テーマ

今年度の研究は、昨年度に引き続き「主体的に学ぶ力を育てる社会科教育の展開」を考へる楽しさ・伝え合う喜びを育む授業づくり」をテーマに研究を行った。今年度の成果と課題を次年度以降の研究につなげていきたい。

2 研究事業

(1) 地区別巡検

- 日時 平成二十八年八月十九日(金)
- 担当 前橋市

- 講師 大室古墳群の語り部の方々
- 内容 大室古墳群の見学
- ・大室公園民家園の見学

赤城南麓の中央に位置し豊かな歴史・自然環境を生かした前橋市を代表する「大室公園」内に所在する六世紀代の国指定史跡である四基の前方後円墳と江戸時代末期の赤城型民家について見学を行った。大室公園内の古墳群の調査成果と整備状況を中心に、大室古墳群の語り部の方々による貴重な話をたくさん聞くことができた。

(2) 地区別授業研究大会

- 日時 平成二十八年十月二十五日(火)
- 会場 太田市立宝泉中学校
- 授業者 木暮 辰弥 教諭
(太田市立宝泉中学校)
- 指導助言 片桐 直昭 先生
(太田市教育委員会指導主事)

「国際社会における国家」日本の領土問題」を題材に、「対立と合意」や「効率と公正」という既習の社会的な見方や考え方を手がかりに、教師から提示された四つの領土問題の解決方法について、利点や懸念事項をグループで話し合い、伝え合う活動を通して、領土問題解決に向けた自己の考えを深めることができた。授業研究会では、ワークショップ形式で参加者が議論を深め、有意義な研究会となった。

(3) 提案発表

- 担当 富岡市・甘楽郡

(4) その他事業

- 理事会開催(五月・二月)
- 社会科資料集群馬県版(地理・歴史・公民)改訂作業、原稿執筆

東京都の研究概要

東京都中学校社会科教育研究会研究担当 研究部長
世田谷区立梅ヶ丘中学校長

伊藤 藤 聡 保

1 研究主題

東京都中学校社会科教育研究会（都中社研）では、平成二十四年度より「国際社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学習の在り方」という研究主題のもと、研究部を中心に研究を進めている。

主題を設定するにあたっては、地球レベルで政治、経済、社会、文化などが一体化する。同時に、経済・社会・環境などの課題についても今まで以上に地球規模で考えるところにも、世界の情勢も刻々と変化しつつある中で対応していく力が求められるという生徒を取り巻く環境・社会的背景を考慮した。また、平成22年度全国大会、16年度関東ブロック大会、23年度全国大会で、社会参画への態度の育成を研究主題に発表を行った。33年度全国大会に向け、研究の継続性をふまえたものとした。

2 研究事業

(1) 総会

五月十六日(月)都研修センター
講演 文科省視学官 澤井陽介先生
「社会科改善の方向性小・中連携を見据えて」

(2) 地域巡検

八月二日(火)中川船番所資料館
深川江戸資料館
八月二十三日(火)
新日鐵住友金属君津製鉄所

(3) 夏季研修会

八月二十六日(金)中央区立佃中学校
講師 有吉保和先生

『社会参画のための資質・能力を育てる指導法の工夫 グループ学習』に焦点を当てて』

(4) 示範授業

十一月十一日(金)町田市立町田第三中学校
授業者 島田一郎先生
「世界と比べた日本の地域的特色」
講師 東京学芸大学 赤坂寅夫先生

(5) 三分野合同研究発表会

二月二十四日(金)都研修センター
講師 東京都教育庁 教育監 伊藤 哲先生

事務局便り

事務局長 吉川 修 央

今年度の関東ブロック中学校社会科教育研究大会は神奈川県相模原市で行われました。私自身は勤務校の校務の関係で当日参加できず、先進的な公開授業、内容の濃い研究協議、そして基調提案や記念講演を見聞することができず、残念な気持ちでいっぱいです。ここでは八月末に高岡会長に同行して神奈川県そして相模原市に御挨拶に伺った時の印象を記したいと思います。

神奈川県庁は横浜市の中心、JR根岸線関内駅のすぐ近くにありまます。建物の前で藤澤朋二郎副会長（県会長）、池谷弘子実行委員長をはじめとする実行委員会の皆様の出迎えを受け、まず神奈川県教育委員会に、挨拶に伺いました。その後、JR線・小田急線で相模大野まで移動し、相模原市教育委員会に伺いました。午

後には全体会会場、公開授業を実施する相模原市立大野南中学校・新町中学校・谷口中学校に伺いました。お忙しい中、どの部局・学校とも私たちが温かく迎えてくださり、神奈川県の皆様が温かさ・進取の気風に触れることができました。会場校では授業者にお会いすることができましたが、いずれもお若い方で、神奈川県の研究部が若手を本気になって育てようとしていることがわかりました。また、会場校の校長先生が授業者を高く評価されていて、少々うらやましく感じました。今回の神奈川県大会が大成功のうちに閉幕したと伺い、神奈川県の皆様が温かさ、進取の気風を思い浮かべました。

さて、来年度の関東ブロック中学校社会科教育研究大会は埼玉県川越市で開催されます。川越市は埼玉県西部の中心都市であり、古来から武蔵国の軍事上の要地だった場所です。川越の街の北部にある川越城は戦国時代に太田道真・道灌父子によって築城されました。江戸時代になると大老や老中に任じられた有力譜代大名や親藩大名（「知恵伊豆」と呼ばれた老中松平信綱、五代將軍綱吉の側用人から大老格に昇進した柳沢吉保がよく知られています）が封じられる関東の要だった地域です。城下町の川越は江戸と新河岸川の水運や川越街道で結ばれ、「小江戸」と呼ばれました。現在は川越城址、喜多院、仙波東照宮、蔵の町、時の鐘、菓子屋横町などの名所、鰻をはじめとするたくさんのおいしいものがあります。

全体会場、公開授業・分科会場ともJR川越線・西武新宿線・東武東上線の各駅から徒歩圏内にあります。
十一月十七日(金)、川越市で皆様とお会いできることを楽しみにしています。